

記憶に

刻む

風景

نقوش من

ملاع الحياة

في الذاكرة

—若手美術家（陶芸・写真）小作品展—

معرض صغير (صور، وخرزف) لفنانين شبان

期間：2013年12月18日(水)～26日(木) 10:00-16:00
会場：日本学術振興会カイロ研究連絡センター 入場無料
JSPS Cairo Research Station
9 al-Kamil Muhammad St., Flat No.4, Zamalek, Cairo
Tel. Fax. 02-2736-3752 e-mail: webmaster@jpscairo.com

【陶芸】 池田昌史 (JICA 陶芸隊員)

瑠璃釉茶碗

釉薬の実験に多くの時間を費やした二年間。
緑を出そうとしてできたのがこの色。



鉄釉カップ

もっともありふれた原料である鉄。
それでも濃度によって色が大きく変わる。
くすんだ色になるときもあれば、
明るい色になるときもある。

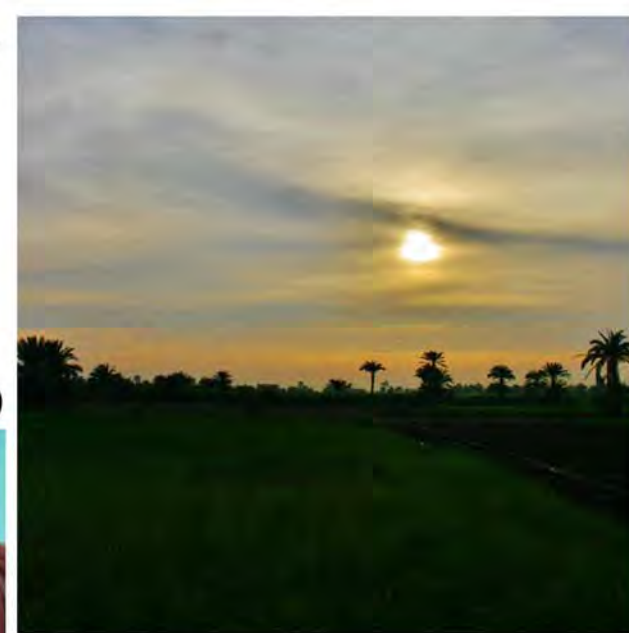


マンガン釉茶碗

エジプトの大地を表現。
マンガン釉によって焦げ付いた表面



日本では愛媛県の砥部で磁器の制作をしている。
ここカイロでは、土や釉薬の違いに戸惑う試行錯誤が続き、
とくに釉薬では失敗の連続だった。エジプトでは、日本では
珍しくなった蹴ロクロを用い、自然なラインを意識して成形
をしているのが、とりわけ印象的であった。



ベドウィンコーヒー (シャラティーン)



遊牧民の女たち (シャラティーン)



砂漠の木 (パルイ)



幼い頃にカイロに住んでいた。ここは遠くて近い国。8ヶ月前、この国で交通事故に遭い、偶然にも母が妹を産んだ病院に入院した。幼い私と今の私。エジプト人と私。同じなのか、違うのか。私はカメラを覗く。